

## 埋蔵文化財最新発掘調査情報

◆朝霞市では、現在69か所の遺跡が存在しています。

川や緑が多く都心にも近い朝霞市においては、宅地造成やマンション建設など大規模開発工事が多いため、記録保存のための発掘調査が数多く行われています。そのなかで、最新の調査成果をお伝えします。

### にんべ・はけいせき 人部・峡遺跡第16地点

調査地：朝霞市宮戸四丁目地内  
期間：令和3年6月14日～7月30日  
調査面積：572.20㎡

### にんべ・はけいせき 人部・峡遺跡第17地点

調査地：朝霞市宮戸四丁目地内  
期間：令和3年8月2日～10月25日  
調査面積：816.07㎡

◆今回の調査は、連続して行われ、第16地点では、住居跡、土坑、ピット等が確認され、遺物は、縄文土器、土師器、陶磁器、石器等が出土しました。続く第17地点では、旧石器時代の文化層、住居跡、土坑、古墳の周濠、溝跡等が確認され、遺物は、旧石器、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器等が出土しました。

両地点で確認された住居跡は、検出状況および出土遺物から、いずれも縄文時代早期後半であると考えられます。この縄文時代早期という時期は、旧石器時代から続いてきた獲物を追って生活する移動型生活から、季節型定住・通年型定住など同じ場所に住み続ける定住型生活へと変化していく時代です。当時の人々にとって、この新河岸川を臨む台地の縁は、定住するための条件が揃った場所であったことが推測されます。

さらに、第17地点からは円墳と推定できる古墳の周濠も確認されました。あさか埋文レポートVol.1とVol.5でも内間木古墳群内の人部・峡遺跡で新たに確認された古墳を紹介しましたが、今回の調査でも新たに古墳が確認できました。しかし今回の調査では、時期を特定できる遺物が出土しなかったため、いつ造られた古墳かは不明です。

内間木古墳群では、今までの発掘調査から10基以上の古墳の存在が確認されています。すべての古墳が一斉に造られたわけではありませんが、非常に密接した場所に造られている古墳も存在します。

今回見つかった古墳も、第7地点で見つかった古墳と非常に近い場所に造られています。どのような人たちが、この新河岸川を見下ろす台地に古墳を造り、眠っていたのでしょうか。

皆さんはどのような人たちが眠っていたと思いますか？



夫婦かな？  
親族かな？  
どんな人が眠っていたのかな？



おむさしのフロントあさか

新河岸川を臨む台地に造られた第7地点と第17地点の古墳の位置関係